

# 熊本地震の活動記録集

## AMDA 南海トラフ備えに

昨年4月の熊本地震で、被災者の医療救援に当たった国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市）は、成果と課題を検証する活動記録集を作った。

生かす狙い。AMDAは前震発生日（14日）の翌日から、深刻な被害を受けた熊本県益城町の小学校を拠点に救護所を開設。半年間で医療従事者ら延べ127人を派遣し診察やリハビリ、鍼灸治療、避難所の衛生管

理などに取り組み、約3千人の被災者を支援した。「南海トラフ地震・津波に備えて」2016年熊本地震 被災者救援活動の検証」と題する記録集は、巡回診療や車中泊者の健康管理といった医療支援の



様子を写真やデータで交えて紹介。他の支援団体の協力で要介助者

用トイレや段ボールベッドを導入するなど避難所の環境改善に努め

熊本地震で被災者の医療救援に当たったAMDAの活動記録集  
たことを詳しく述べている。避難生活の長期化に伴って鍼灸のニーズ

約1200部作製し協力団体などに配った。

問い合わせはAMDA  
（086-252-7700）  
（大橋洋平）

また、片岡聡一総社市長や松田久・岡山経済同友会代表幹事、AMDA医師ら7人が熊本地震を踏まえた大地震への備えについて提言。「（現地の）行政職員が足らず支援物資の配送などに遅延があった」「復興には民間の力が大きい」などと振り返り、官民組織が連携する必要性を訴えている。

益城町出身で現地統括を務めた難波妙理事は「熊本での活動を検証し課題を含め関係機関で共有することが、今後の災害対応の在り方を探るために欠かせない」と話してい